

Y18b 太陽観測衛星「ひので解説」DVD 理解度・活用度調査

下井倉ともみ、殿岡英顕、下条圭美(国立天文台)、時政典孝(西はりま天文台)、鷹宏道(平塚市博物館)、江越航(大阪市立科学館)、斉藤和幸(日原天文台)、鈴木大輔(川口市立科学館)、中道晶香(ぐんま天文台)、竹内幹蔵(三瓶自然館サヒメル)、本間隆幸(府中市郷土の森)、矢治健太郎(立教大)

PAONET(公開天文台ネットワーク)のひのでデータ活用WGでは、昨年度、ひので科学プロジェクトの協力のもと、「ひので」の初期観測成果を教育普及関係者に紹介するDVDを作成した。そして、公開天文台・科学館・プラネタリウム・大学・高校など約600の教育関係機関に配布を行った。DVDには、ひのでの初期観測成果を紹介する映像・画像のほか、太陽を解説する各種資料を多数収録し、各教育現場で教育普及に活用できる内容とした。

今回我々は、教育普及関係者と一般来館者にそれぞれアンケートを実施した。教育普及関係者には活用の実態を調査し、46の施設から回答を得た。例えば、「DVDを活用しましたか」には、「はい」が53%「活用する予定がある」35%という回答があった。特に、プラネタリウムでの活用割合が多かった。活用されたコンテンツは「ムービー」が最も多く、次に「講義、講演などの資料」であった。「自身の業務に役立ちましたか」「自身の知識取得になりましたか」という設問には9割以上が「はい」と答えている。また、一般来館者には、DVDの理解度調査を行った。例えば、「このDVDを見てどうでしたか?」という設問には、80%以上が「すごいと感じた」「よかった」と回答した。「太陽の構造について」「コロナの温度が高いこと」に関する設問には、50%近くが「DVDを見ながら理解できた」と回答した。

以上の調査結果は、今回のDVDの内容が教育普及的に効果があることを示している。

本講演では、以上の理解度・活用度調査の詳細な結果を報告する。